



# あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM '99 10月号



(大磯町大磯のサイト)

サイノカミは、相模にいくつあるのだろう？

どうして火祭りをするんだろう？

不思議な神様、サイノカミの正体を探る！

サイノカミ

## 秋期特別展「相模の道祖神」開幕

会期：10月9日(土)～11月23日(火)

たとえば、半分に欠けた双体道祖神が展示してあります。長い歳月の間、何かがぶつかって欠損してしまったのでしょうか。毎年1月14日が来る度に道祖神の損傷は激しくなりました。それを承知で、痛め続けなければいけない理由がありました。

大磯の左義長をご覧になったことはありますか。左義長の特徴はいくつもありますが、何といたっても燃え盛るサイトの火の雄壮さでしょう。炎を見上げていると気が晴れ晴れとしてきます。相模では、サイノカミの火祭りをサイトバライとかサイトヤキといいます。サイトを焼き払うことから付けられた呼び名です。サイトを燃すことが重要で、火は高く大きく燃えるほど良いとされました。だから、競い合って大きなサイトをこしらえました。サイトを燃すのも道祖神が損傷しているのも同じ理由によります。答えは、展示をご覧になればおのずと分かるはず。納得していただけるかどうかは別ですが・・・

(次のページへ続く)

博物館でも、大磯の方々のご協力でかわいいサイトをこしらえました。サイトはサイトバライのシンボルです。サイト無くしてサイノカミを語ることはできません。

#### < 記念行事 >

記念講演会「相模の道祖神」

日時：10月24日(日) 13:30～15:30

講師：小川直之先生(國學院大學助教授)

会場：博物館講堂

参加：自由

観察会「相模の道祖神めぐり」

期日：11月13日(土) 10:00～15:00

場所：秦野市(予定)

定員：30名

参加：10月末日までに往復はがきで申し込む



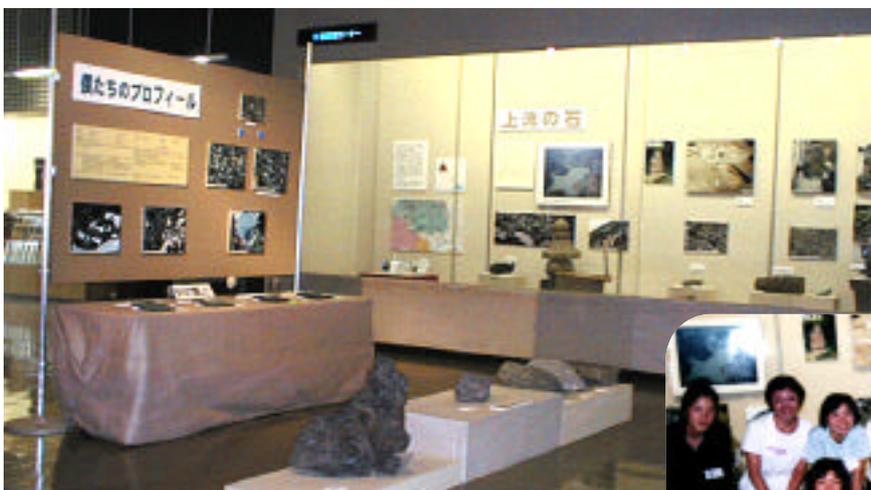
---

---

## 寄贈品コーナー「石の旅 - 石と人との関わり - 」

9月8日から16日までの一週間、各大学から博物館実習生を17名受け入れ、実習が行われました。初日は施設概要説明、2・3日目は各分野の資料整理、4日目は普及活動(漂着物を拾う会)への参加と、博物館の活動を通りとおしと学んだあと、最後の3日間で寄贈品コーナーの展示制作を行いました。展示制作を通して、展示の意図や構成の仕方、展示の技術や手法などを学ぼうというものです。

今年はありふれた石がどのように人の生活と関わっているのかを意図し、地質分野から石の原石を、考古分野と民俗分野より縄文時代～現代にかけて使われている石製品を提供し、展示シナリオから考えてもらいました。長い話し合いの結果、石が上流から下流に流れていく間に、人々にどのように利用されていくかを展示しようということになり、「石の旅 - 石と人との関わり - 」と題して、展示がつけられました。五輪塔・石臼・打製石斧・石錘などを用い、石ころの緑ちゃん・ぼくくん・たいらくくんという3人のキャラクターを登場させて、物語風に展示が構成されました。悪戦苦闘してできあがった展示ですが、是非ごらんください。この展示は10月31日まで展示されています。



完成した展示

実習生の面々



# ★歩みはじめた「展示解説ボランティアの会」

この3月、主に展示解説をしていただくための「展示解説ボランティアの会」の募集を行いました。この会は、博物館がはじめて広報などで募った公募形式の「ボランティア制度」です。

現在、応募いただいた方々に月2回ほど博物館へお集まりいただき、各担当学芸員から各展示コーナーの「ねらい」や具体的には「どの様な展示物」から構成されているかを聞く勉強会を開催しています。また、7・8月、博物館では夏期特別展「自然探偵・野道を行く」を開催してましたので、試みに、展示解説ボランティアを経験して頂きました。さらに、「展示解説ボランティアの会」の活動を知っていただくため、「ニュース紙」の発行も計画されています。10月には、その第1号が出来上がります。

博物館の展示は、考古、歴史、民俗、生物、地質、天文各分野の展示コーナーが全部で30コーナーほどあります。そのうち、7コーナーの勉強会が終了しています。歩みは遅いものの着実に進んでいます。今後の活躍にご期待ください。



夏期特別展で、見学者にパズルの遊び方の説明をするボランティアの会の飯坂保枝さん

## 自然観察ゼミナール 「鳥のねぐら入門」

野鳥の中には、スズメ・ムクドリ・カラスのように集団で夜を過ごす種類がいることが知られています。そうした場所のことを集団ねぐらと呼んでいます。集団ねぐらは、うっそうとした木立のように外敵の近づきにくい安全な場所に作られますが、意外な場所をねぐらに使う種類もあります。たとえばハクセキレイは国道1号線の馬入橋の橋桁を長年にわたってねぐらに使用しており、そこに集まる数は真冬には2000羽を超えるほどです。こうしたねぐらは、集まってくる鳥たちのようすを観察するだけでも面白いのですが、鳥の人口調査にも役立ちます。昼間、カラスの数を数えようと思うとほとんど不可能ですが、県内で10カ所ほど知られているねぐらに集まってくる数を数えて合計すれば、県内に何羽のカラスがいるか、およその数を確かむことができるのです。この講座では、そうした観察のしかたや、なぜ鳥が集団で寝るのかのナゾに迫ります。

日時：11月14日(日) 14時～16時 博物館(室内でお話)

11月28日(日) 16時～18時 花水川(野外観察/サギやカラスのねぐら)

12月18日(土) 15時～17時半 馬入(野外観察/ハクセキレイのねぐら)

申込：11月5日までに往復ハガキで。30名以上の場合は抽選。なお、3回続けて参加できる方に限ります。

# 博物館カレンダー

## 1999年10月

1	金	古文書講読会	講堂
		☆ 寄贈品コーナー「実習生展示」 (～10月31日)	展示室
2	土	○ こども観察会	相模川
		地質調査会	科学室
		☆ プラネタリウム「流星雨の降る夜」 (～11月7日)	プラネ室
3	日	民俗探訪会	野外
7	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
8	金	古文書講読会	講堂
9	土	☆ 特別展「相模の道祖神」 (～11月21日)	特展室
14	木	石仏を調べる会	特研究室
15	金	古文書講読会	講堂
16	土	○ 考古学入門講座「土器の編年」	講堂
		天体観察会	屋上
17	日	◎ ろばたばなしの会	展示室
		地質調査会	野外
20	水	裏打ちの会	科学室
		地質調査会	特研究室
22	金	古文書講読会	講堂
		◎ 星を見る会「月と木星」	屋上
23	日	相模川の生い立ちを探る会	大涌谷
	土	空襲と戦災を記録する会	特研究室
24	日	古代遺跡を探す会	野外
		☆ 特展記念「道祖神講演会」	講堂
28	木	石仏を調べる会	特研究室
30	土	○ 考古学入門講座「土器の編年」	講堂

☆寄贈品コーナー「石の旅ー石と人の関わりー」  
博物館実習生による展示(p.2参照)。  
会期：9月16日(水)～10月31日(日)

☆プラネタリウム「流星雨の降る夜」  
・期間：9月11日(土)～11月7日(日)まで  
・土日の 11時と14時(祭日・月末を除く)  
・観覧料：100円

◎ろばたばなし  
相模地方の伝説と昔話を語ります。  
日時：10月17日(日)午後1時半と3時  
場所：1階展示室民家内 参加：自由

☆：展示(無料)・プラネタリウム(観覧料)  
○：申込制 ◎：自由参加 他は年間会員制

## 1999年11月

2	火	☆ 特別展「相模の道祖神」 (～11月21日)	特展室
		☆ 寄贈品コーナー「民俗」 (～11月28日)	展示室
5	金	古文書講読会	講堂
6	土	地質調査会	特研究室
7	日	民俗探訪会	野外
11	木	石仏を調べる会	特研究室
12	金	古文書講読会	講堂
13	土	○ 考古学入門講座「土器の編年」	講堂
		◎ 漂着物を拾う会	虹ヶ浜
		☆ プラネタリウム「しし座流星群」	プラネ室
		○ 特展記念「道祖神めぐり」	野外
14	日	地質調査会	野外
		天体観察会「流星観察準備」	科学室
	土	○ 自然観察セミナー「鳥のねぐら」	科学室
	日	☆ プラネタリウム「しし座流星群」	プラネ室
17	水	裏打ちの会	科学室
		地質調査会	特研究室
19	金	古文書講読会	講堂
20	土	☆ プラネタリウム「惑星の動き」 (～1月9日)	プラネ室
		古代遺跡を探す会	野外
21	日	◎ ろばたばなしの会	展示室
25	木	石仏を調べる会	特研究室
26	金	古文書講読会	講堂
		◎ 星を見る会「木星と土星」	屋上
27	土	○ 考古学入門講座「土器の編年」	講堂
		空襲と戦災を記録する会	特研究室
28	日	相模川の生い立ちを探る会	東丹沢
		○ 自然観察セミナー「鳥のねぐら」	野外

○考古学入門講座  
土器の編年をテーマに地域の歴史を考えます。  
・10/16 縄文時代 講師：長岡文紀氏  
・10/30 弥生時代 講師：伊丹 徹氏  
・11/13 古墳時代 講師：長谷川厚氏  
・11/27 奈良平安時代 講師：河野喜映氏  
申込：10/5 までに往復ハガキで。抽選で100名。

◎星を見る会 「月と木星」  
日時：10月22日(日)19時～20時30分  
場所：博物館屋上(集合は科学教室)  
木星の衛星や表面の模様、月面のクレーターなどを観察します。  
参加自由

あなたと博物館 24巻7号通巻273号 発行 平塚市博物館 3000  
〒254-0041 平塚市浅間町12-41 Tel.0463-33-5111 Fax.31-3949